

平成23年度第1回伊勢市環境審議会 議事概要

日 時:平成23年5月9日(月) 15:30~17:00

場 所:伊勢市役所東庁舎4階 4-3研修室

出席委員(五十音順):

天野委員、大西委員、岡委員、金田委員、川端委員、小久保委員、小寺委員、竜田委員、玉串委員、中川委員、中島委員、中村委員、夏山委員、朴委員、堀井委員、松月委員、山本委員

事務局:

白木環境生活部長、山村環境生活部参事、坂本環境課副参事、環境課環境政策係員松村、環境課環境政策係員高橋

1. あいさつ

2. 自己紹介

各委員及び事務局の自己紹介。また、事務局から欠席委員についてご紹介した。

3. 正副会長の決定について

事務局から「会長 朴恵淑氏、副会長 深草正博氏」と提案し、満場一致で決定した。

以下、会長が議事進行。

4. 諮問について

～市長挨拶～

3/11 の東日本大震災にて甚大な被害を受け、また、原発にも想像以上の影響をもたらした。それと同時に、われわれの生活における電気エネルギーの必要性や、エネルギーの確保の一極集中してしまうことによる危険性を感じた。一極集中ではなく様々なエネルギーを確保することによって、リスクを分散する必要がある。

大小ではなく13万人都市ならではの、エネルギー政策を示したいと思う。未来の子どもたちの財産に繋がるよう、知恵をお貸しいただきたい。

5. 今後のスケジュールについて

事務局から、資料に基づくスケジュール及び参考資料の概要について説明した。

朴会長:諮問に対する答申内容には、エネルギー供給の立場の方々との戦略が不可欠。昔の生活スタイルに戻るのには不可能に近い難しさがあるので、化石燃料とのベストミックスによる持続可能な発展

を目指していく。

今年度、当審議会では、『エネルギーの地産地消のアクションプラン』と『地球温暖化防止実行計画』の2本作らなければならない。事務局の提案スケジュールでは、議論の時間がかかなり限られている。委員の皆様への培われた力を出し合う必要がある。また、事務局は、大変思い事務作業になると思うが、積極的な提案をしていただきたい。

委員の皆様と共通認識を深めながらつくっていくためにも、今日は時間の許す限り、委員の皆様で自由論議をしたいと思う。

小久保委員：環境問題の最優先事項は、「エネルギーの地産地消」ではないか？

朴会長：他にいかがか？エネルギー供給する立場の方から、いかがでしょうか？

中島委員：当社は、天然ガスによるエネルギー供給をしている。天然ガスの有効活用がCO2排出量削減に繋がる。また、ガスの燃焼だけに限らず、コージェネによる発電・熱利用や燃料電池などで環境負荷軽減に貢献している。ただ、伊勢市内では、約 13,000 人に供給している状態で、普及が課題といえる。

中川委員：エネルギーの地産が、どの程度の規模までできるかという点まで議論しなければいけない。そのうえで、中部電力として連携できる部分を模索したい。また、生活水準を保ったままでのエネルギーの上手な使い方についても考えていく必要があると思う。

堀井委員：自然エネルギーというと、地熱・風力・太陽光が主であり、地域の特性に合わせて選択していく。伊勢の場合は地熱は不向き。コストメリットを出しつつ実施していく必要がある。いかに安く作るかが私たちの使命太陽光の場合、長期(10年程度)のスパンでペイできるメリットはあると思う。

朴会長：日本は、近年で新エネ・自然エネに関して後進国になってしまった。不安定供給や高コストにより推進されにくく、比較的低コストの原子力に走っていった。一方欧州では、1950年頃から新エネに関して積極的に取り組んでいた。自然エネルギーや再生可能エネルギーを伊勢らしく利用していくことを目指す。スマートグリッドは無理でもスマートコミュニティの伊勢をどう作るか。

中村委員：CO2排出量削減や低コスト化にばかり走りすぎたため、リスクが一極集中していった。10年ほどまえ、前々市長から「生ごみは燃やさない」との方針が示されてから、商工会議所環境委員会では、生ごみの有効活用方法検討を始めた。バイオガスの取組事例では、神戸の取組を視察したり、東京の事例を調査したりした。バイオガス化は真剣に考える必要があるがデータは少ない。

岡委員：6年前、地元で「補助金をもらってバイオガス施設建設したい」と話をする民間業者がいたが、まったく進んでいない。なぜか？また、風力は景観問題等から反対意見もあるときが、クリーンエネルギーであるので、検討の価値はあるのではないかと？また、生ごみに関しては、ガス化と平行し有機肥料化処理の検討をしてはどうか？

竜田委員：たとえば太陽光をとっても情報が混在していて、主婦の立場としては判断しかねる。今、特に注目されている時期だからこそ、コスト部分だけに限らない情報の提供、知る機会の提供が必要ではないか。

大西委員：諮問内容は、エネルギーの地産地消がメインか？ごみ処理等の問題からバイオガス構想の検討が主な議題か？新エネルギー・自然エネルギーは間口が大変広いので、先に市で実施した調査をベースに伊勢ならではの取組を検討すべき。NEDOの調査結果、全国市町村での取組について、事務局は次回までに情報提供をお願いしたい。

朴会長：さまざまな意見がでたのでまとめると、まず「エネルギーの地産地消」とは何のためにするかとい

うと「伊勢市のまちづくり」のため。どんな伊勢を今後つくるのかを描いていく。
事務局には、
早急に庁内横断的組織を立ち上げ、共通項を探し、分析を行なってください。
また、人口予測や経済産業予測等の資料をもとに、将来シナリオを作ってください。
それらをもとにしたCO2排出量削減のいつを目処に、どんな目標を掲げるのか示してください。
以上を実施した資料を、審議会開催の1週間前までに委員に提供してください。

— — 以上 — —